

イ. 発震機構

別府－島原地溝帯で発生する地震は、発震機構（CMT 解）が南北方向に張力軸を持つものが多い。4月14日21時26分に発生したM6.5の地震や4月16日01時25分に発生したM7.3の地震を始め、「平成28年（2016年）熊本地震」の地震活動の中で発生した多くの地震について、発震機構は概ね南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。

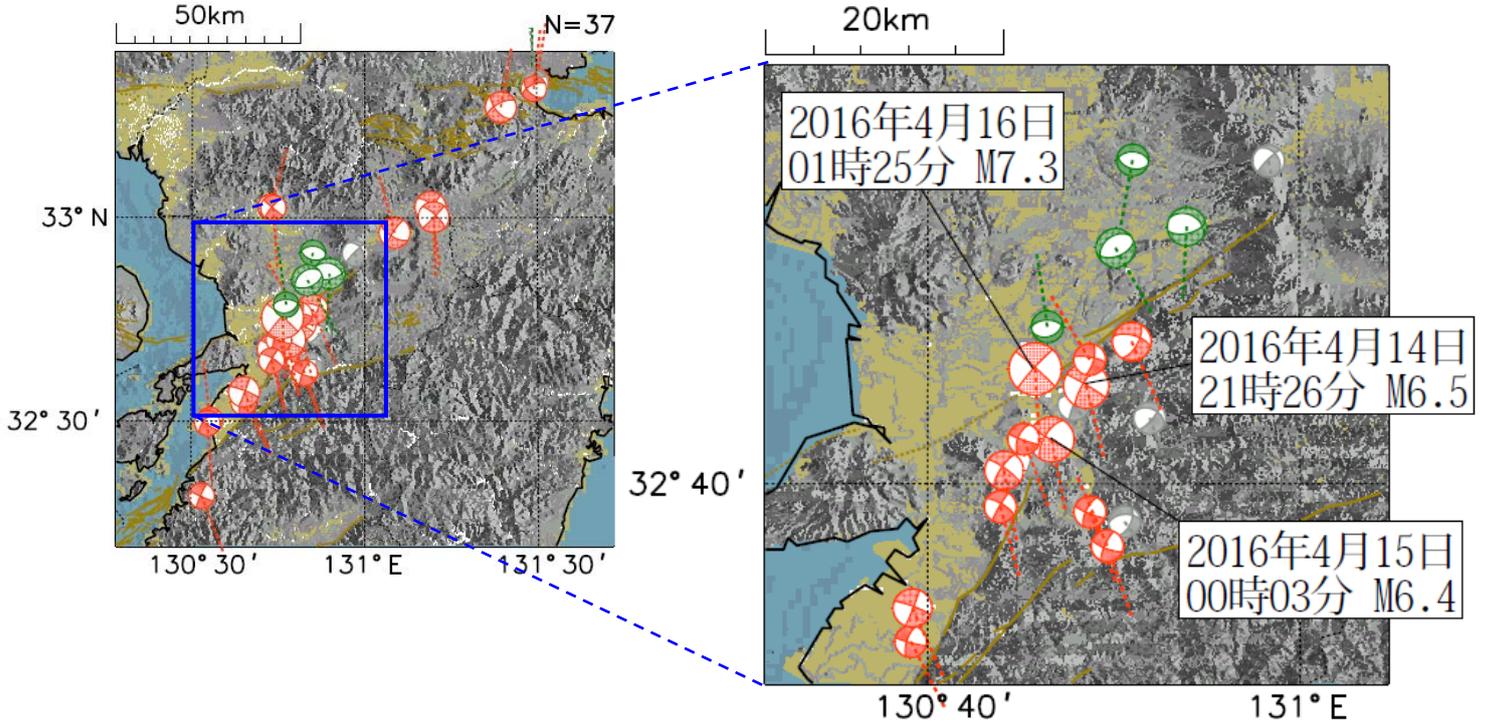


図2-4 発震機構（CMT 解）分布図
（1997年10月1日～2016年4月30日、
深さ0～30km、 $M \geq 4.0$ ）

シンボルから伸びる点線は張力軸の方位を示す。
 橙色は横ずれ断層型、緑色は正断層型の発震機構を示す。
 震央分布図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

ウ. 過去の地震活動

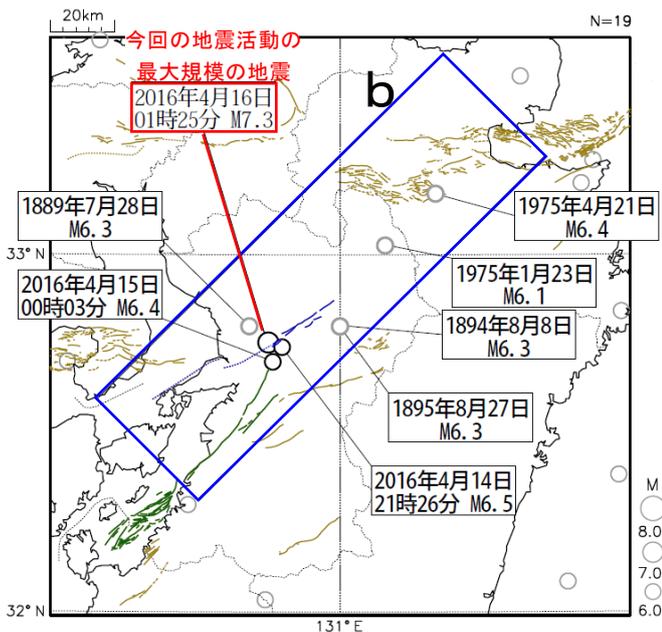


図2-5 震央分布図
（1885年1月1日～2016年4月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$ ）

2016年4月の震源を濃く表示。
 震央分布図中の青・緑・茶色の各線は、地震調査研究推進
 本部の長期評価による活断層を示す。

1885年1月以降の活動を見ると、今回の一連の地震活動の付近（領域b）では、1889年7月28日にM6.3の地震が発生し、死者19人などの被害が生じている（被害は「日本被害地震総覧」による）。

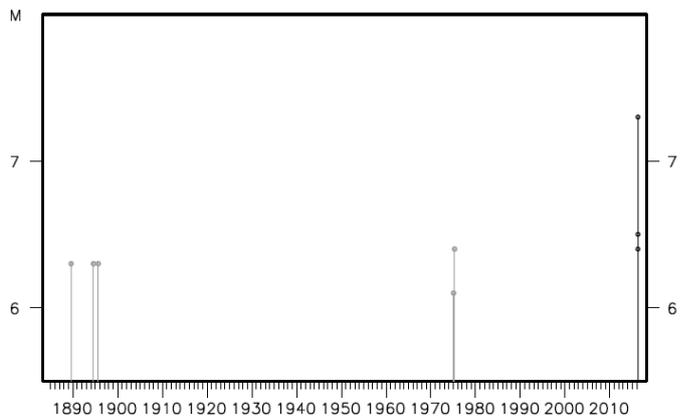


図2-6 領域b内のM-T図